

山県市男女共同参画に関する市民意識調査

実施期間：令和3年2月10日（水）～3月5日（金）

調査人数：市民1,000人（男性500人、女性500人を住民基本台帳から無作為抽出）

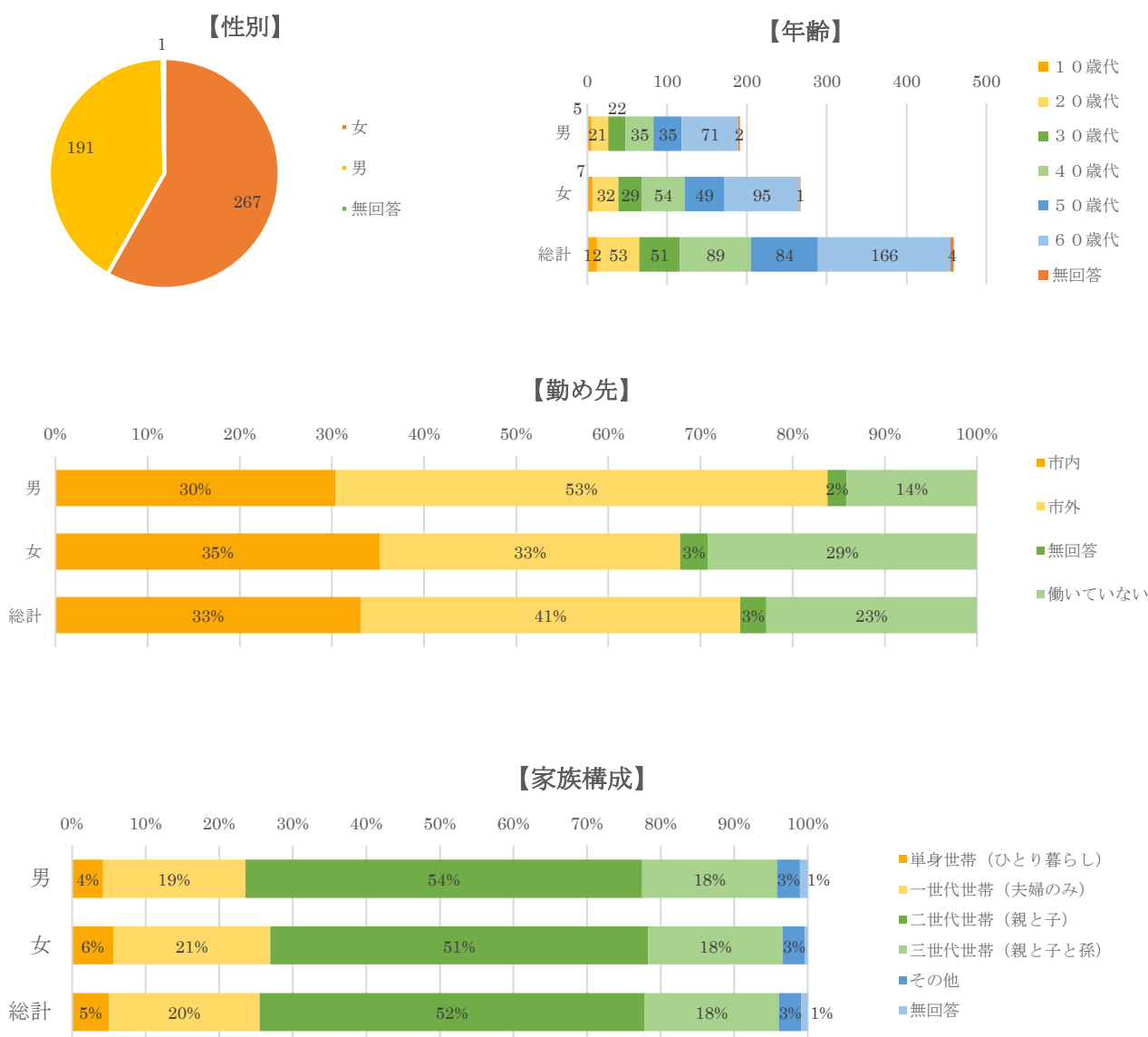
有効回答数：n=459人

【回答者属性】

回答者は、男性191人、女性267人（性別無回答1人）と、女性の方が多くなっています。

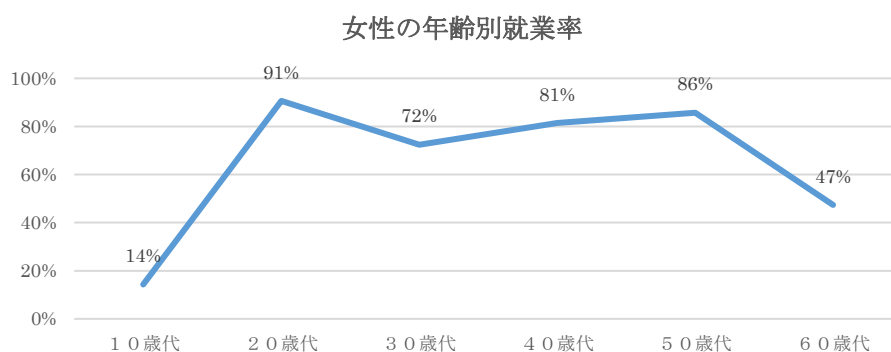
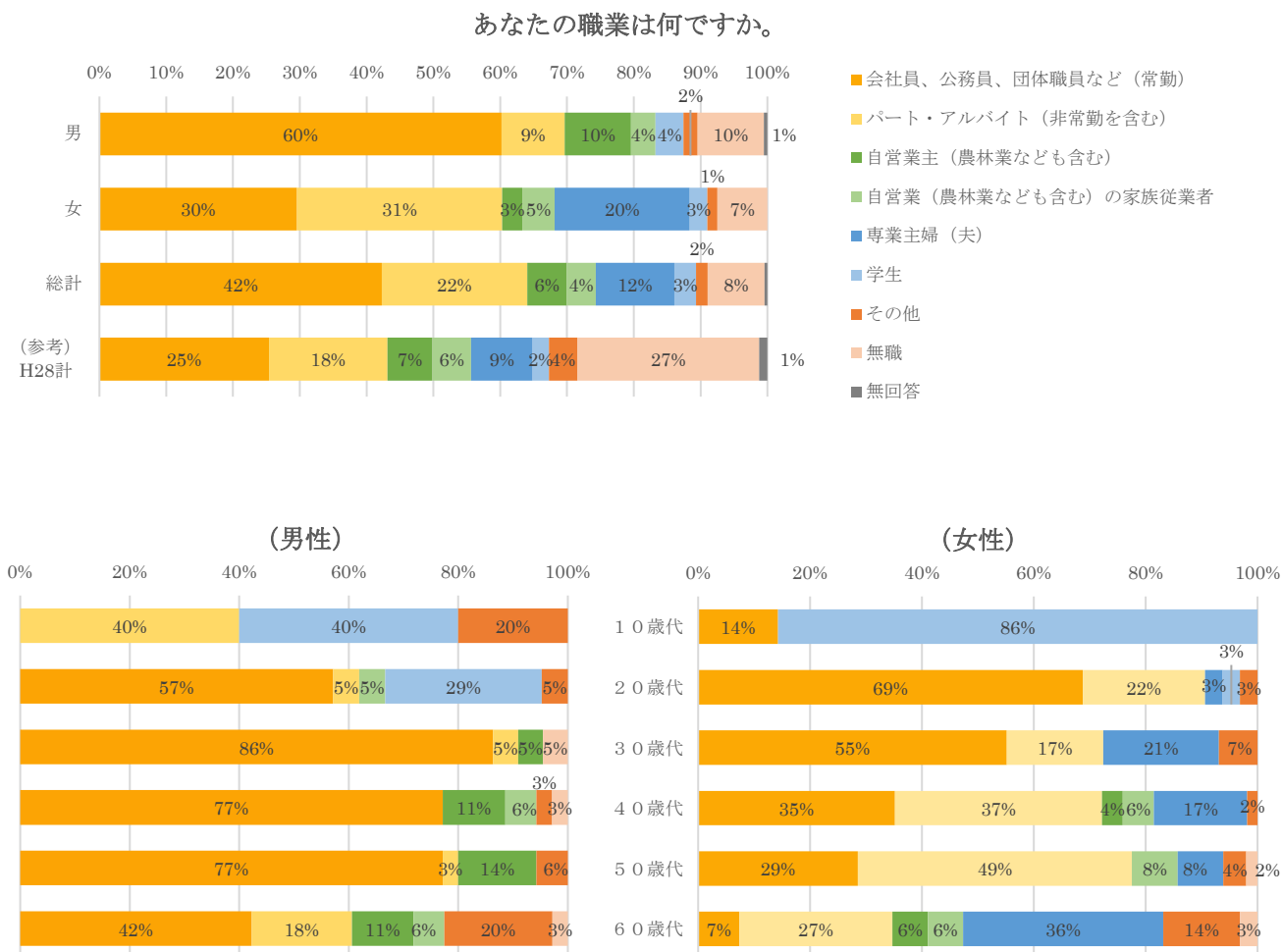
年代別では、10代12人、20代53人、30代51人、40代89人、50代84人、60代166人と、年齢が上がるほど回答者が多い傾向となっています。

勤務先は男性が市外、女性は市内の方が多くなっています。



【就業について】

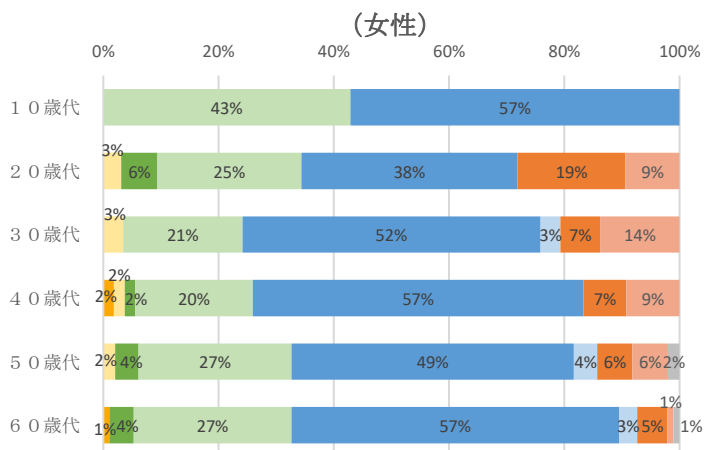
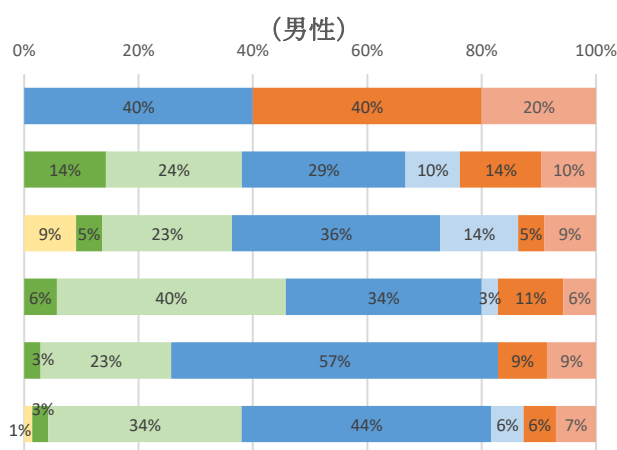
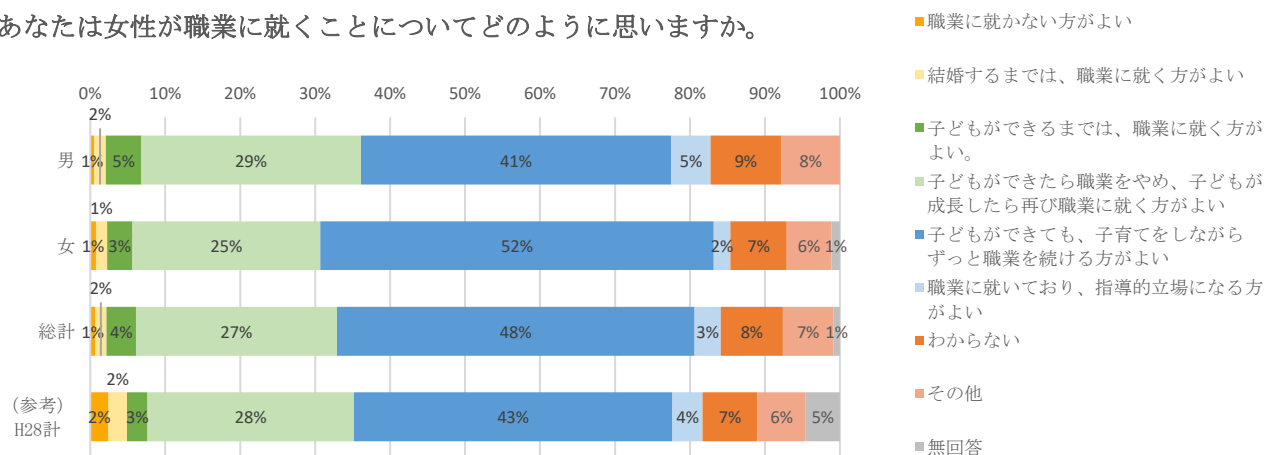
H28 年調査より常勤の正社員の割合は増加しているものの、男性に比べて女性は低い傾向にあります。女性の年代別の働き方については、「10～20代」は学生か常勤の正社員が多く、「30代」は常勤の正社員が減少して専業主婦が増加しています。「40代」以上は専業主婦が減少し、非常勤のパートとして働く女性が増加しています。



【女性が職業に就くことについて】

「女性が職業を持つことについてどう思うか」については、男女ともに、ほぼ全世代で「子どもができて、子育てをしながら職業を持ち続けた方がよい」が最も多い回答となっています。しかし、子育て世代である40代男性では、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが成長したら再び職業に就く方がよい」との回答が最も多くなっており、子育て世代の男性と女性との間に女性が職業に就くことについて、意識の差が生じています。

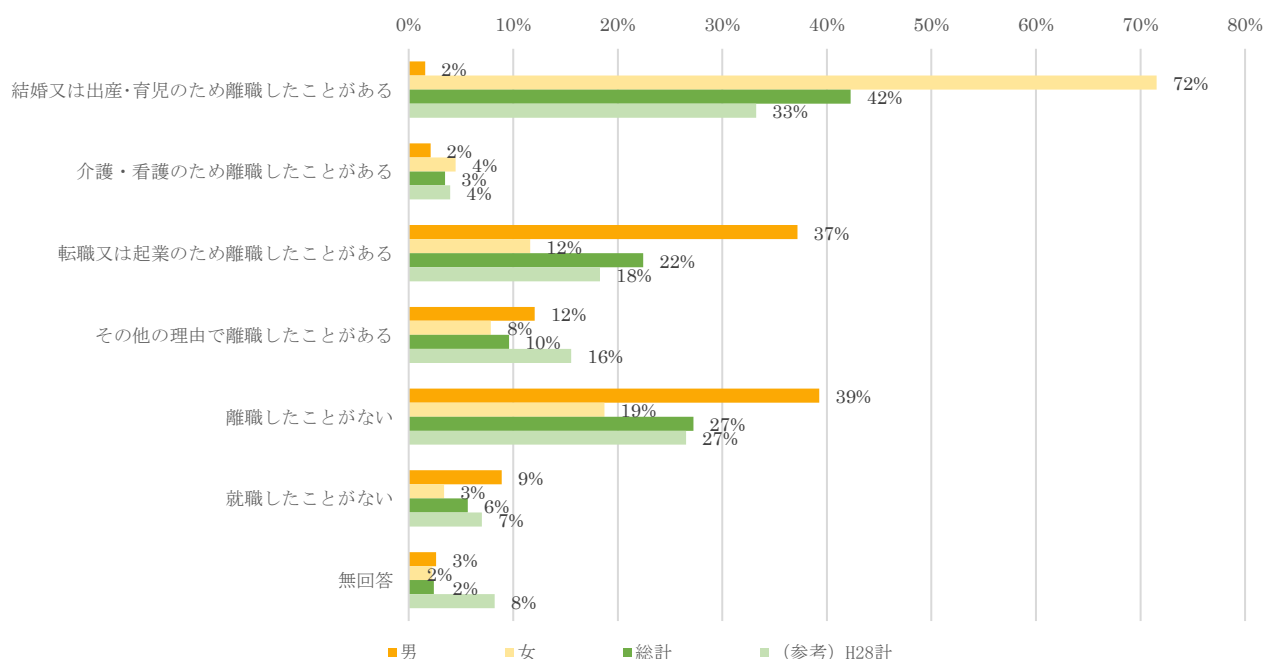
あなたは女性が職業に就くことについてどのように思いますか。



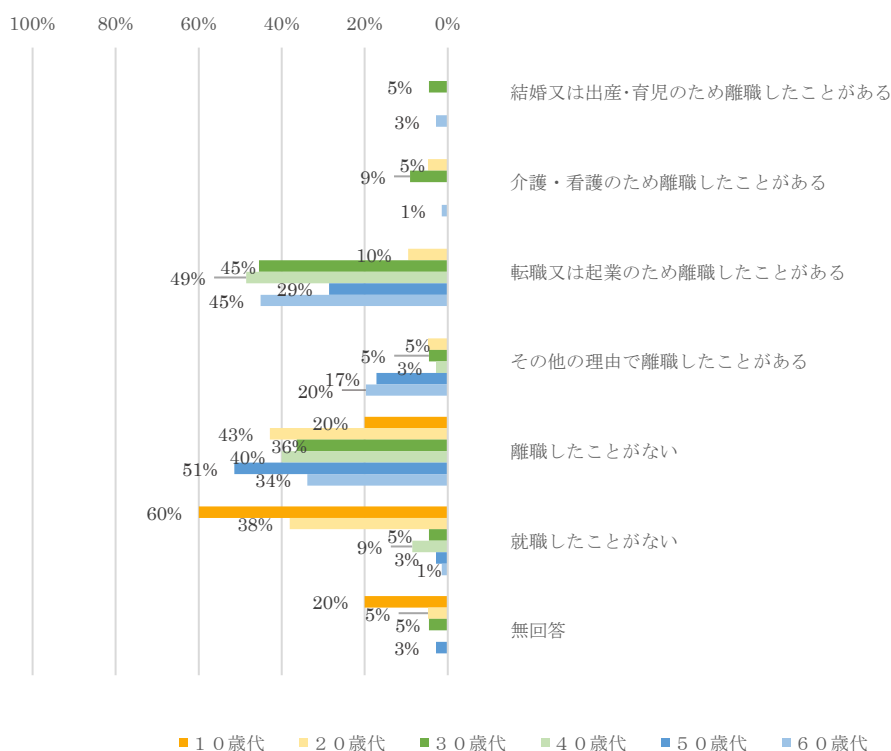
【離職について】

「離職」については、女性の離職理由の半数近くが「結婚又は出産・育児のため」と答えており、「子どもができて、子育てをしながらずっと仕事を持ち続けた方がよい」と思う女性が多い一方で出産子育て等のため離職する人が多い状況にあります。平成28年と比較して、結婚又は出産・育児のために離職したことがある割合が若干増加しています。

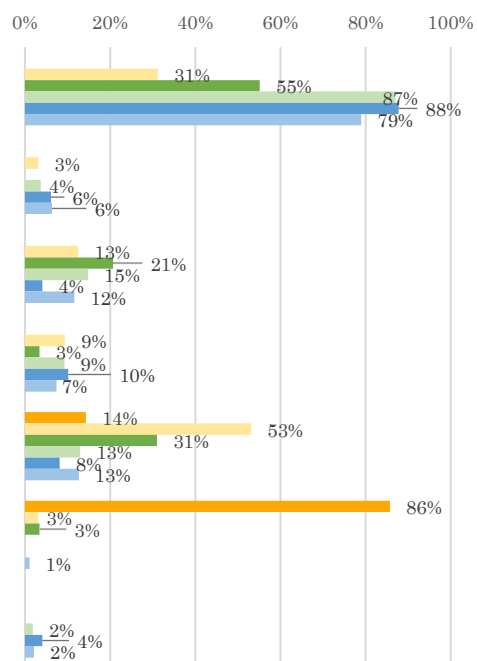
あなたは離職したことがありますか。（複数選択）



（男性：複数選択）



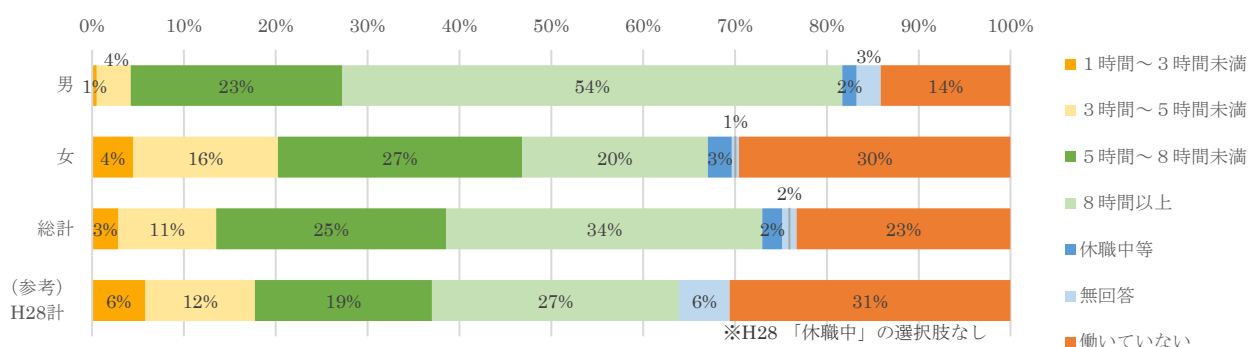
（女性：複数選択）



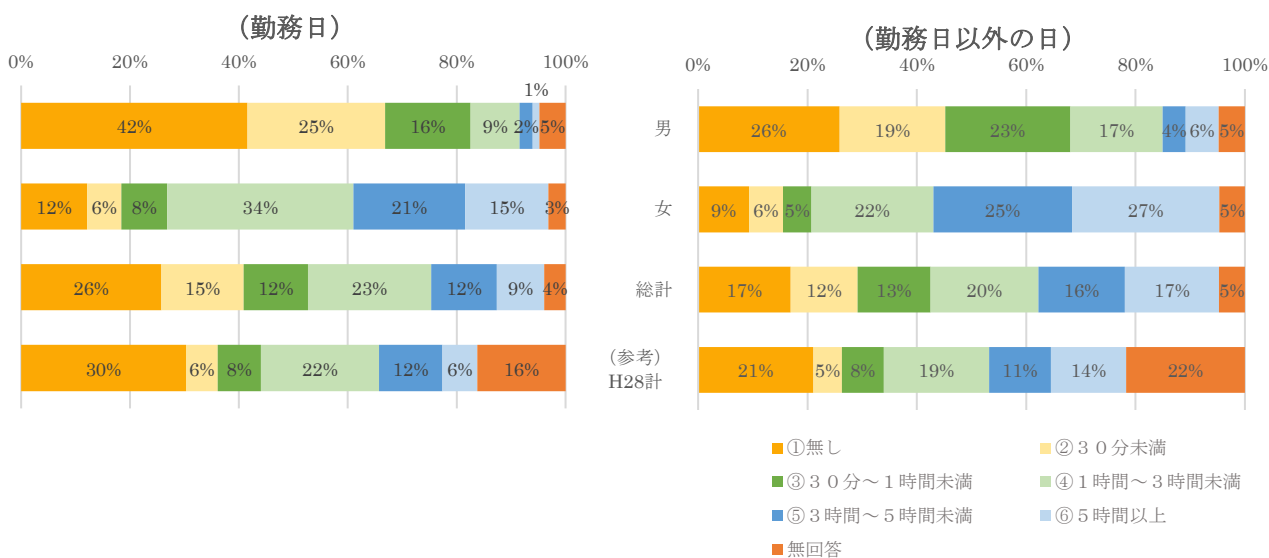
【仕事・家事・育児・介護に携わる時間について】

仕事に携わる時間は、8時間以上勤務している男性が半数以上であり、女性の2割と比較して男性が仕事に携わる時間が長くなっています。家事・育児・介護に携わる時間は、勤務日、勤務日以外の日ともに男性は無しが最も多く、女性は勤務日で1時間～3時間未満、勤務日以外の日で5時間以上の回答が最も多くなっています。勤務日・勤務日以外の日の際においても、女性の方が家事・育児・介護に携わる時間が長い傾向にあります。

あなたが仕事に携わる時間は一日あたりどれくらいですか。



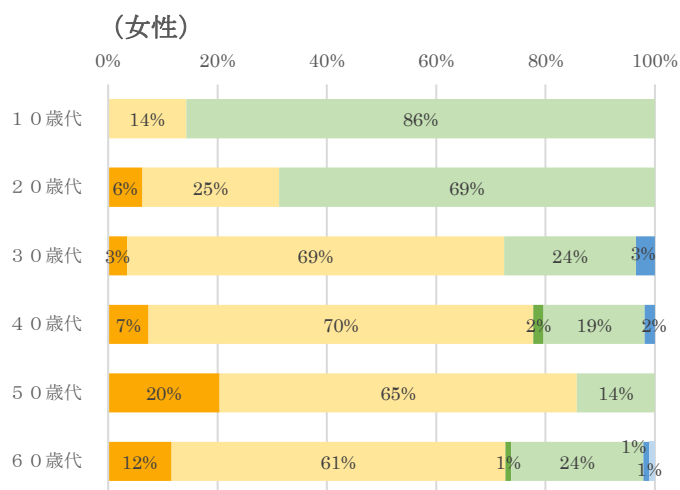
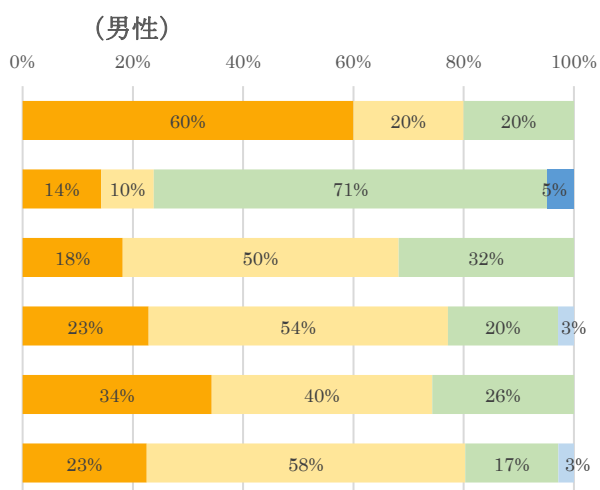
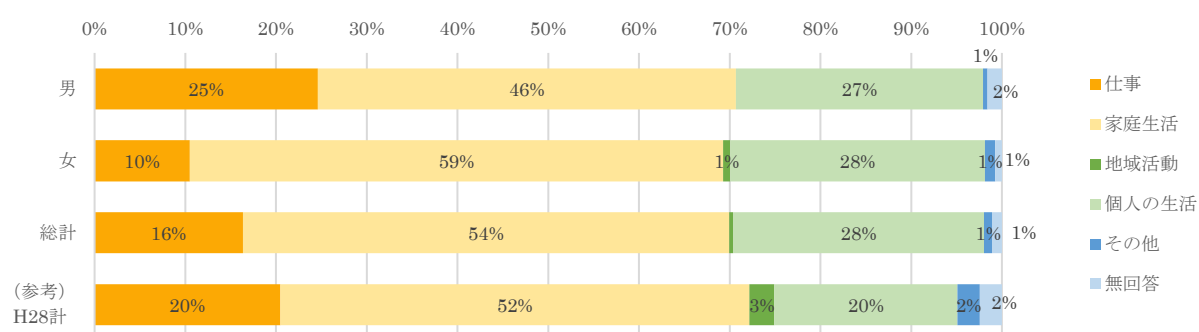
あなたが家事・育児・介護に携わる時間は一日あたりどれくらいですか。



【生活の中で最も優先したいことについて】

「生活の中で最も優先したいもの」については、男女ともに子育て世代は「家庭生活」と「個人の生活」を、若年層は「仕事」と「個人の生活」を優先したい人が多く、前回調査と比較して、「個人の生活」を優先したいと考える人が増加しています。子育て世代の男性は「家庭生活」を最も優先したいと考える人が多いにもかかわらず、実際は長時間の仕事があるなど、家事・育児・介護に携わっていない状況にあります。

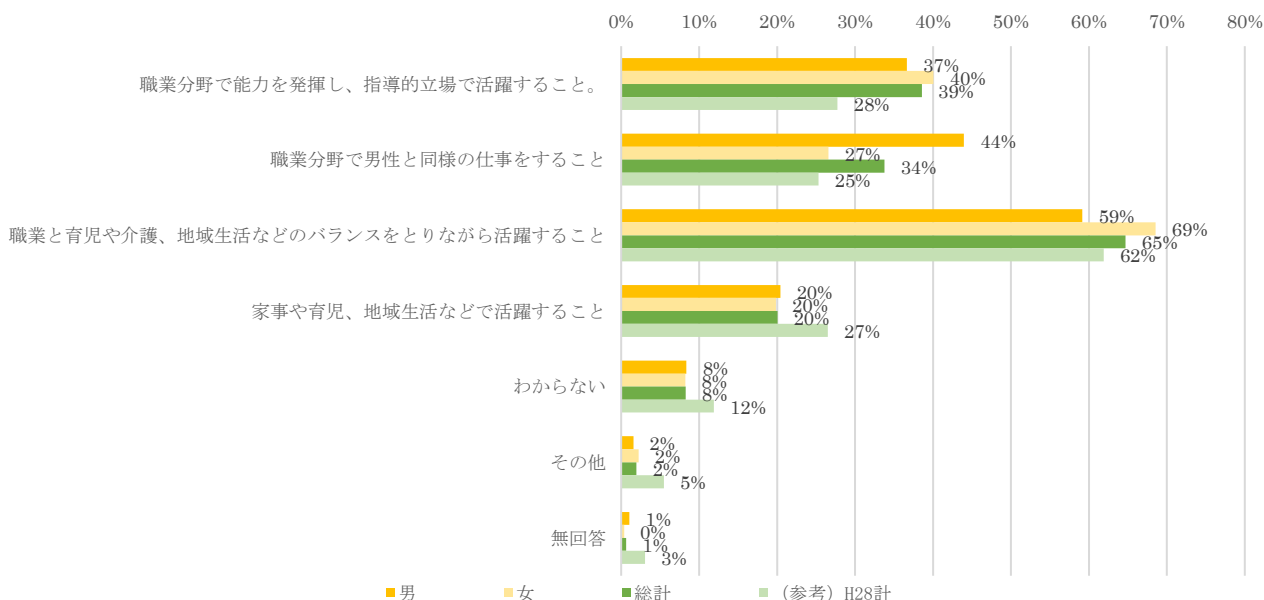
あなたが生活の中で最も優先したいものはどのようなことですか。



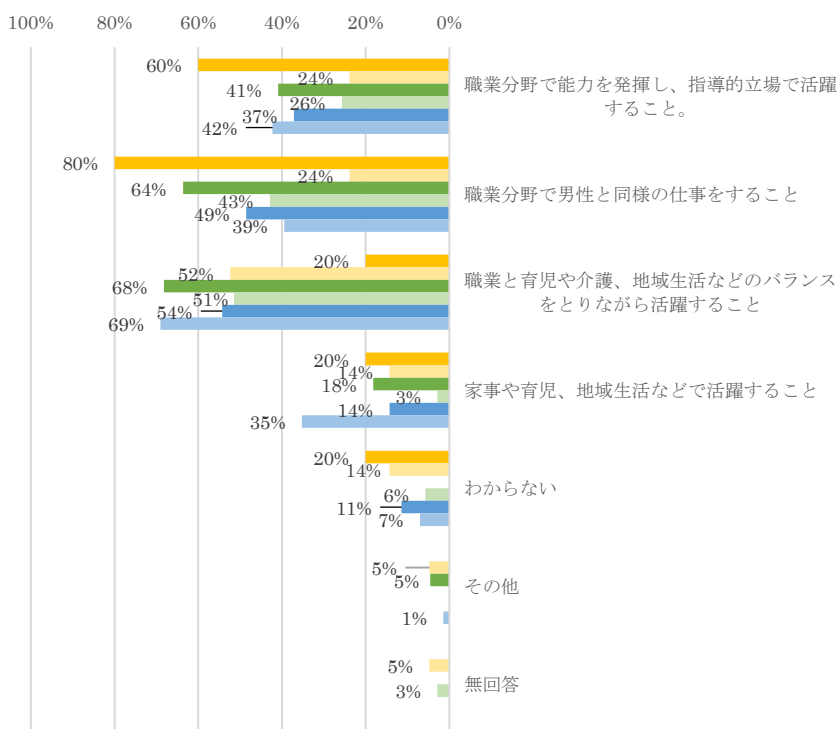
【女性の活躍について】

「女性の活躍とはどのようなことだと思うか」については、男女ともに多くの世代で「職業と育児や介護、地域活動などのバランスをとりながら活躍すること」を最も多く挙げています。また、男性は「職業分野で男性と同様の仕事をする事」も多くなっています。

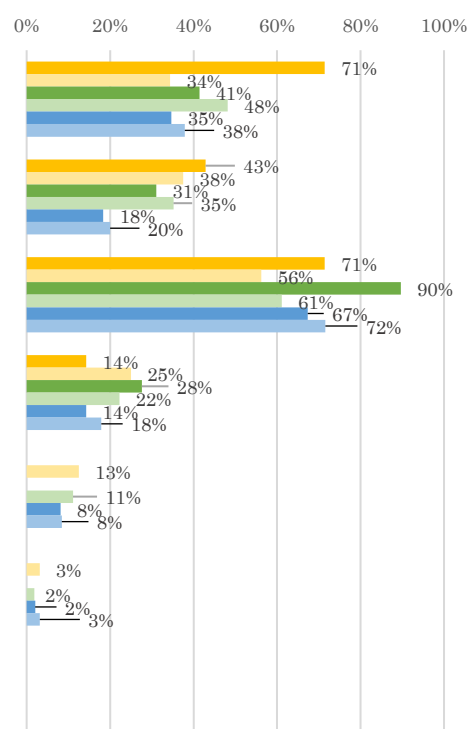
あなたは「女性の活躍」とはどのようなことだと思いますか。
(複数選択)



(男性・複数選択)



(女性・複数選択)

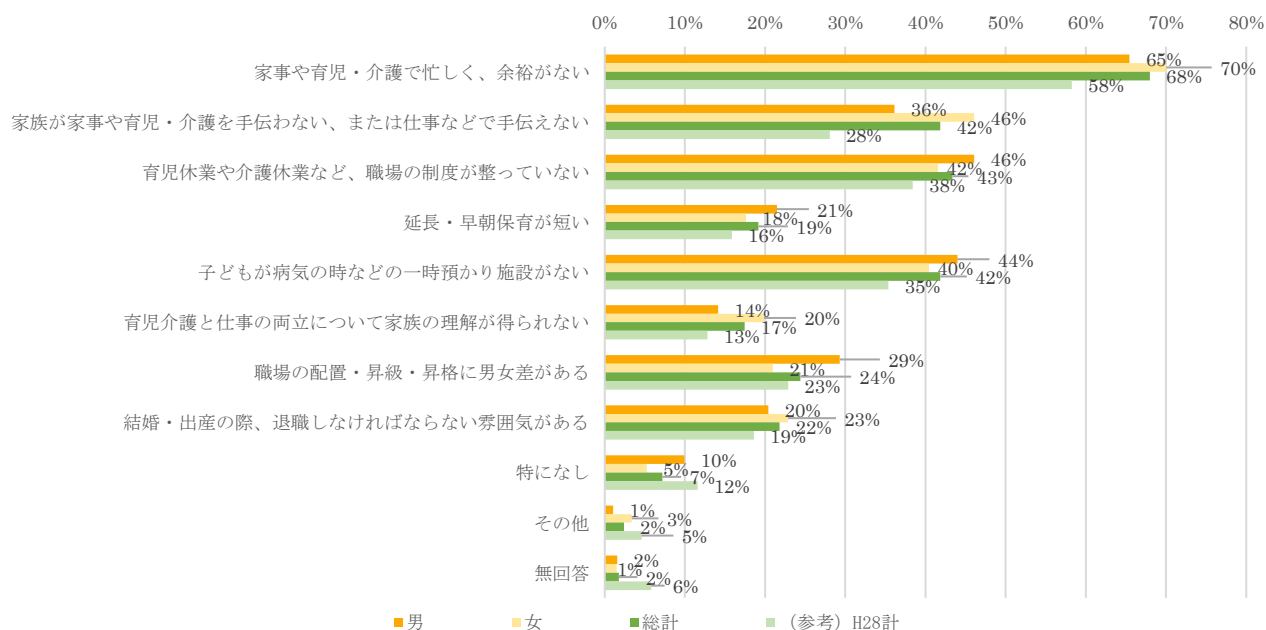


■ 10歳代 ■ 20歳代 ■ 30歳代 ■ 40歳代 ■ 50歳代 ■ 60歳代

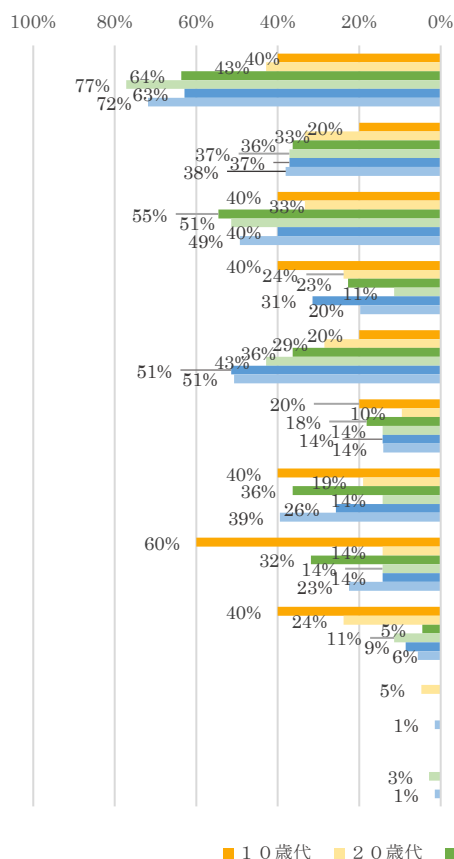
【女性が職業を続ける上での困難について】

女性が職業を続ける上で、「家事や育児・介護で忙しく、余裕がない」や「家族が家事や育児・介護を手伝わないまたは仕事などで手伝えない」、「育児休業や介護休業など、職場の制度が整っていない」「子どもが病気の時などの一時預かり施設がない」などが挙げられています。

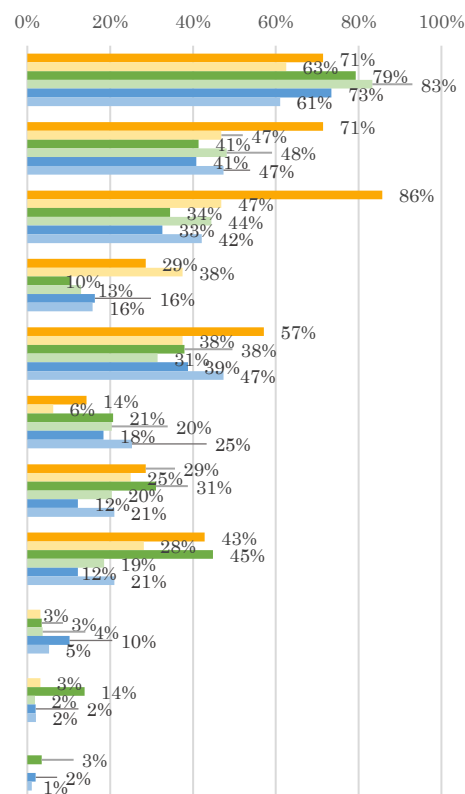
女性が職業を続ける上でどんな困難がありますか。または、あると思いますか。（複数選択）



(男性：複数回答)



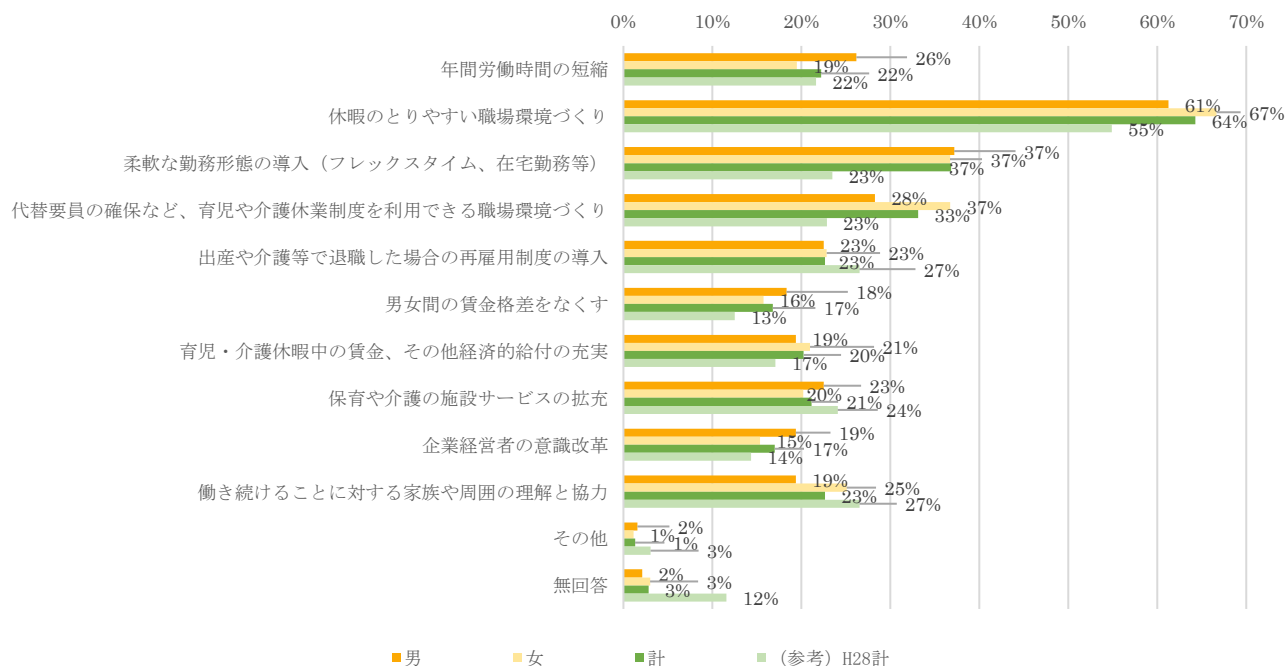
(女性：複数回答)



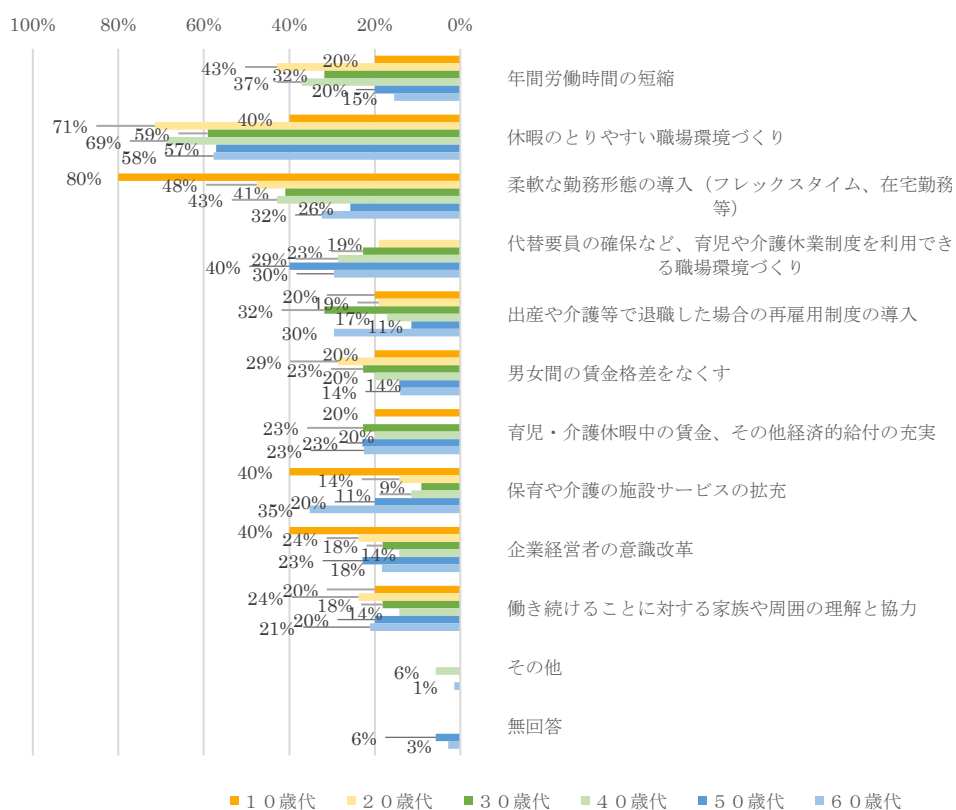
【男女がともに仕事と家庭を両立するために必要な条件の整備について】

仕事と家庭を両立するためには、男女ともに「休暇のとりやすい職場環境づくり」、「柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム、在宅勤務等）」、「代替要員の確保など、育児や介護休業制度を利用できる職場環境づくり」の整備が必要と考えています。

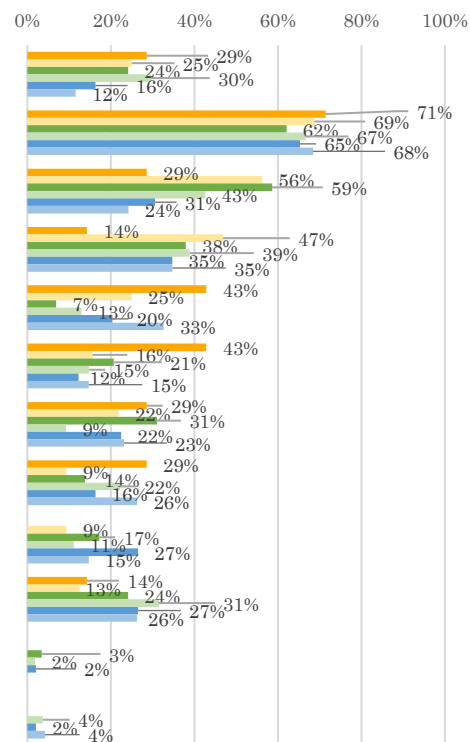
男女がともに「仕事と家庭を両立」するためには、どのような条件の整備が必要だと思いますか。（3つ選択）



（男性：3つ選択）



（女性：3つ選択）



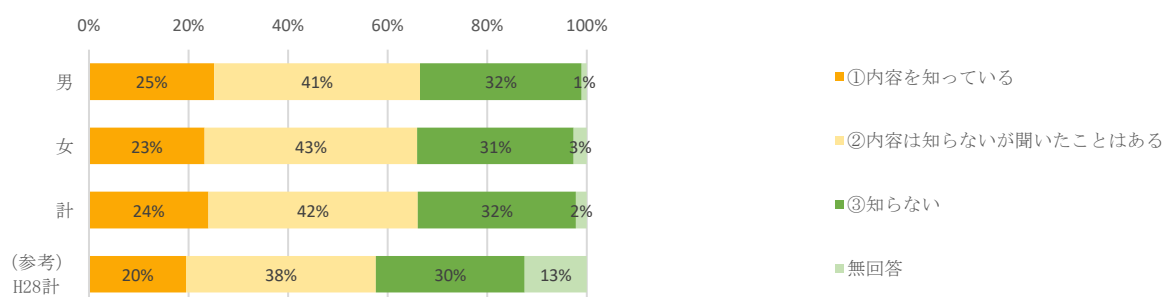
【男女共同参画も関する言葉の認知度について】

男女共同参画に関する言葉の認知度については、「内容を知っている」と答えた率が平成28年の調査と比べ、ほとんどの言葉において増加しています。特に、「ワーク・ライフ・バランス」（16%⇒27%）、「ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」（9%⇒42%）と大幅に増加しています。一方、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」「山県市男女共同参画基本条例」、「山県市男女共同参画プラン」については、認知度が低いまま横ばいとなっています。

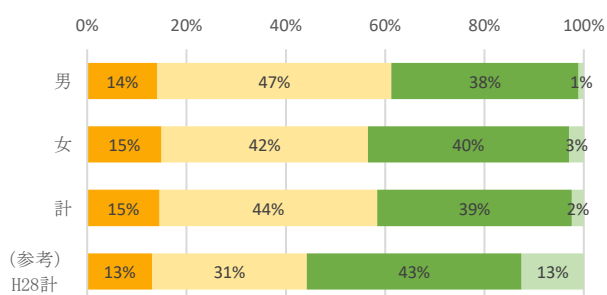
全体として、男女共同参画の言葉の認知度は上がっていますが、どの言葉も「内容を知っている」との回答が半数に満たないことから、引き続き啓発を行う必要があります。

あなたは、次にあげるア～スまでの言葉のうち、その内容について知っているものはありますか。

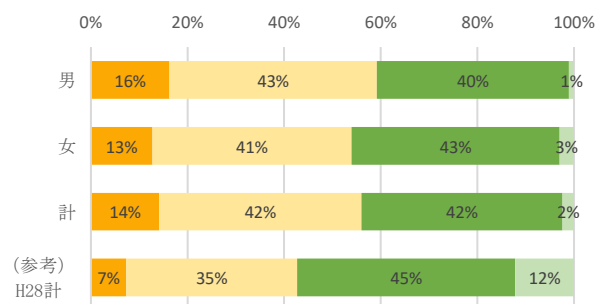
〈ア〉 男女共同参画社会



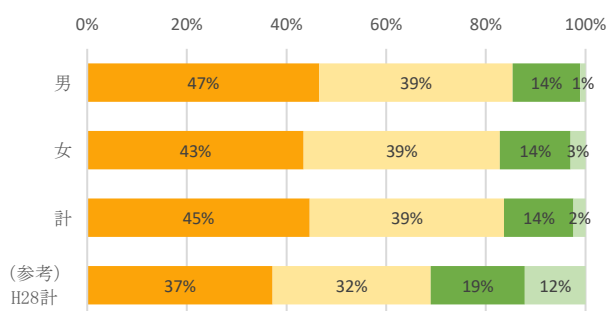
〈イ〉 女子差別撤廃条約



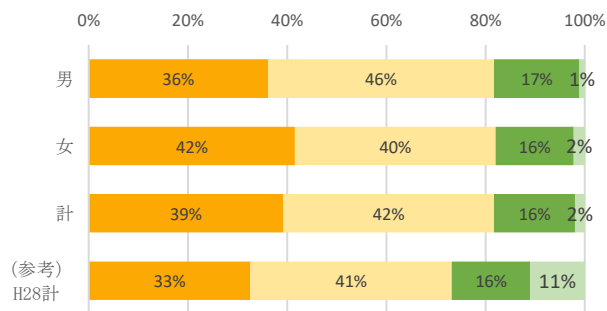
〈ウ〉 男女共同参画社会基本法



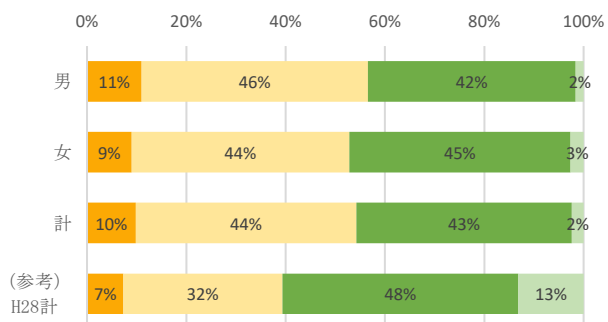
〈エ〉 男女雇用機会均等法



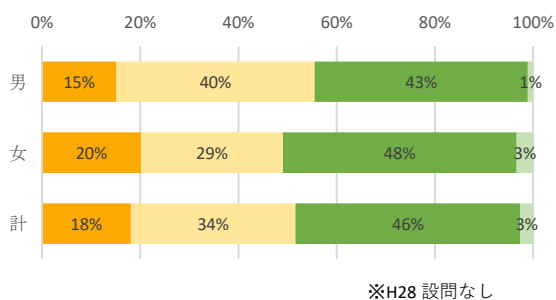
〈オ〉 育児・介護休業法



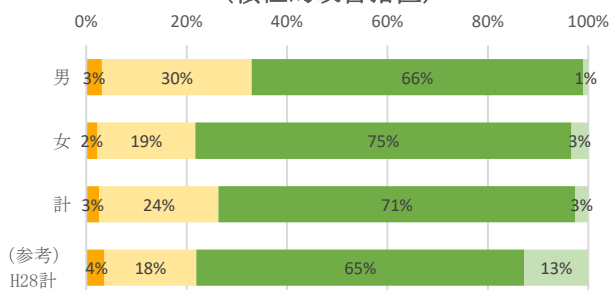
〈カ〉 女性活躍推進法



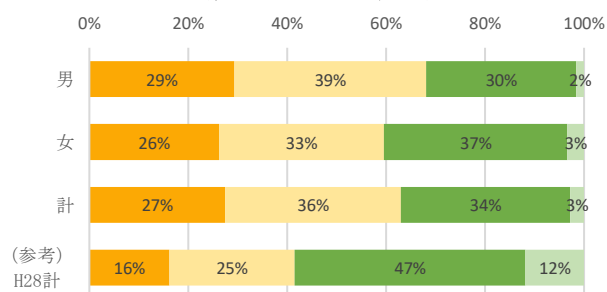
〈キ〉 配偶者暴力防止法



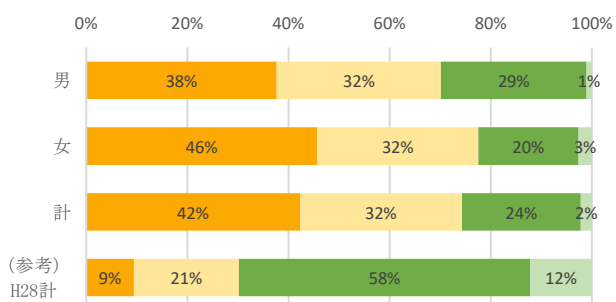
〈ク〉 ポジティブ・アクション
(積極的改善措置)



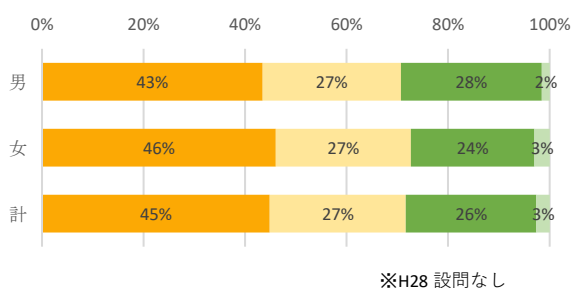
〈ケ〉 ワーク・ライフ・バランス
(仕事と生活の調和)



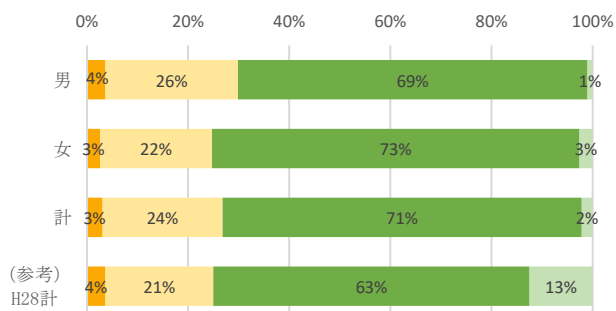
〈コ〉 ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)



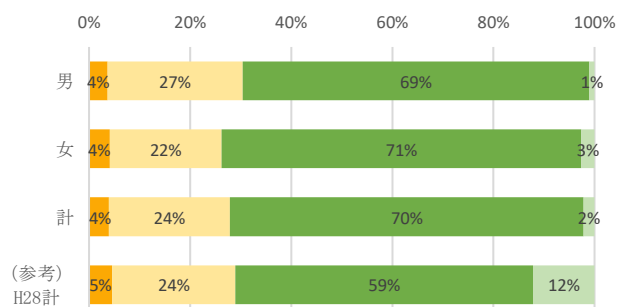
〈サ〉 LGBT (性的少数者)



〈シ〉 山県市男女共同参画推進条例



〈ス〉 山県市男女共同参画プラン

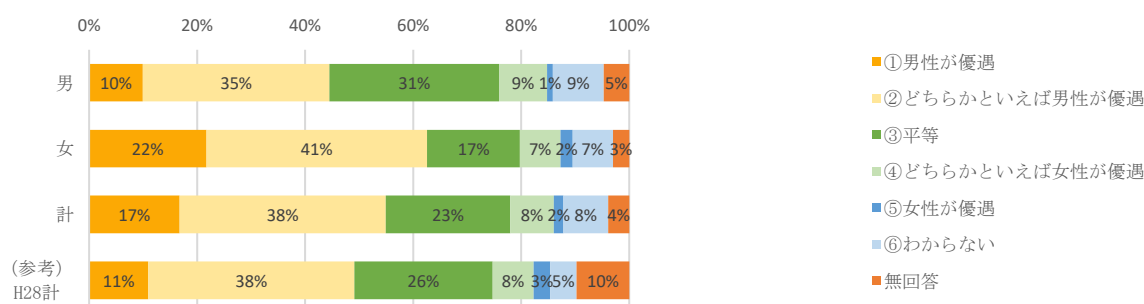


【男女の地位の平等感について】

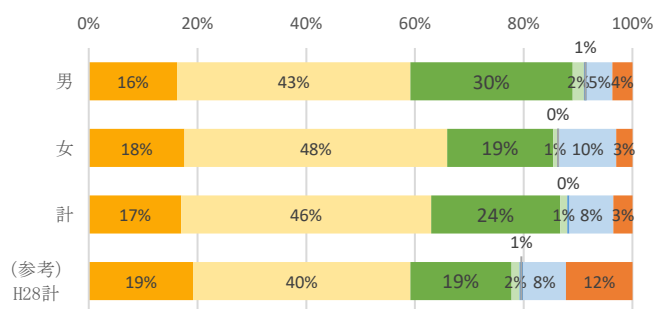
「各分野における男女の地位の平等感」については、「家庭生活の中」「職業の選択や職場」「政治の場」「法律や制度上」「社会通念・習慣・しきたり」「家業の後継者選び」「地域の中」「社会全体」は男女ともに「男性優遇」と感じている人が多いです。これらの項目においては、「平等」と感じている割合は男性の方が女性よりも高く、「男性優遇」と感じている割合は女性の方が男性より高い傾向にあります。また、男女ともに「平等」と感じている人が多いのは「学校教育の場」と「ボランティアなど団体活動の場」となっています。大部分の項目では、男女ともに「女性優遇」と感じている割合は低く、特に女性の多くは依然として社会の様々な分野で「男性優遇」と感じていると考えられます。

あなたは、次にあげるア～コで男女の地位は平等になっていると思いますか。

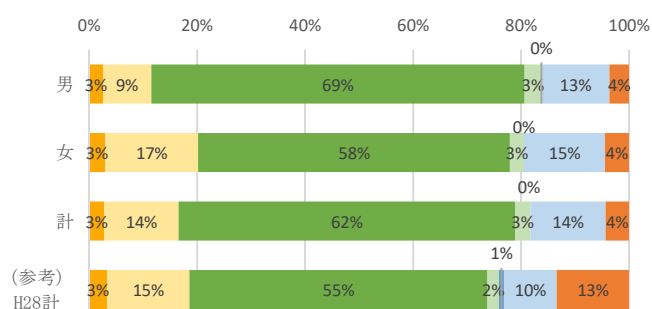
〈ア〉 家庭生活の中



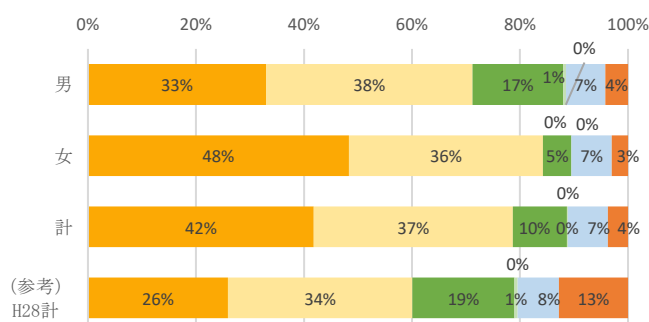
〈イ〉 職業の選択や職場



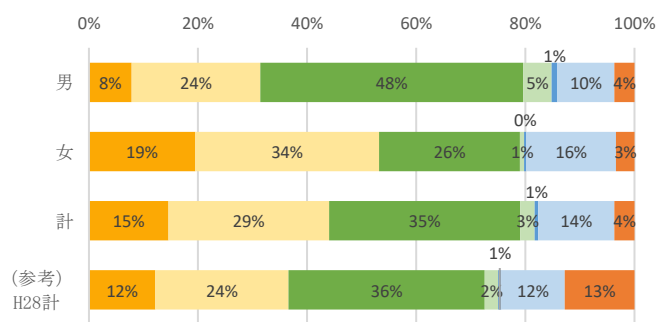
〈ウ〉 学校教育の場



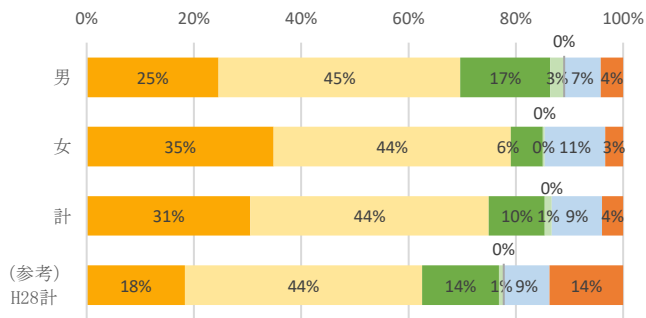
〈エ〉 政治の場



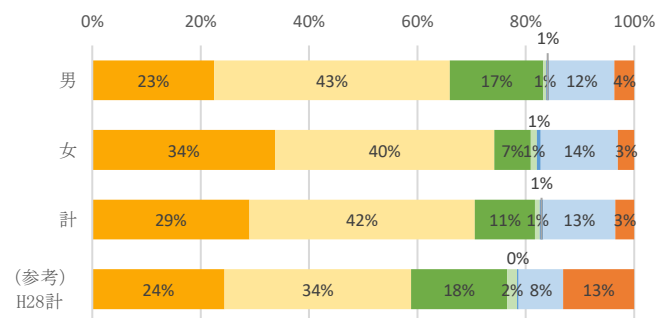
〈オ〉 法律上や制度上



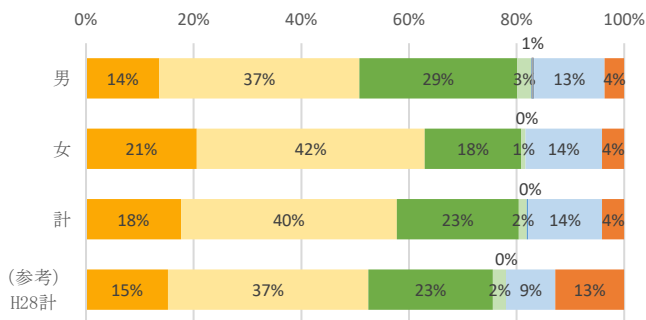
〈カ〉 社会通念・習慣・しきたり



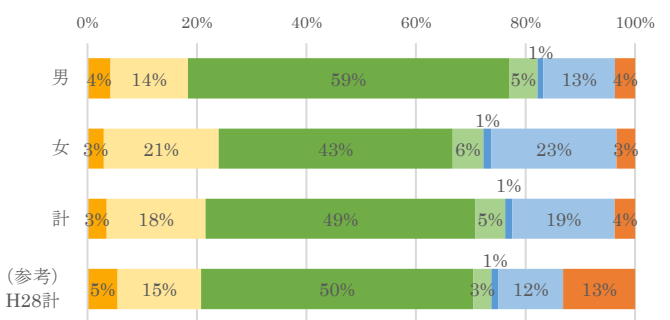
〈キ〉 家業の後継者選び



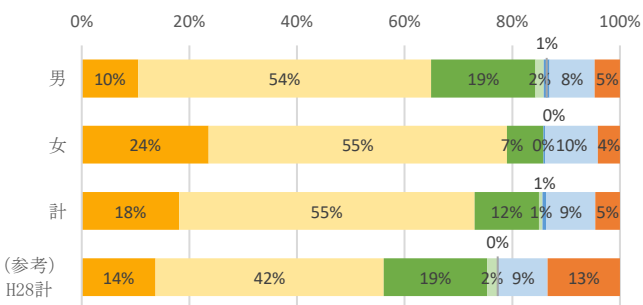
〈ク〉 地域の中



〈ケ〉 ボランティアなど団体活動の場

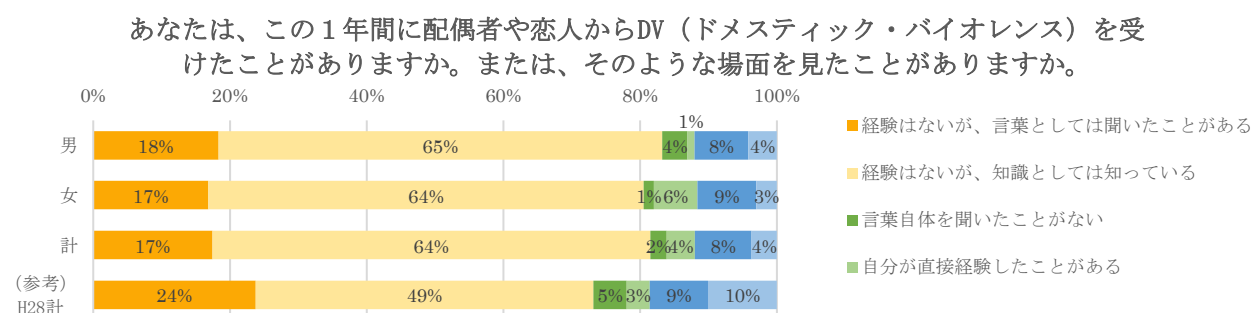
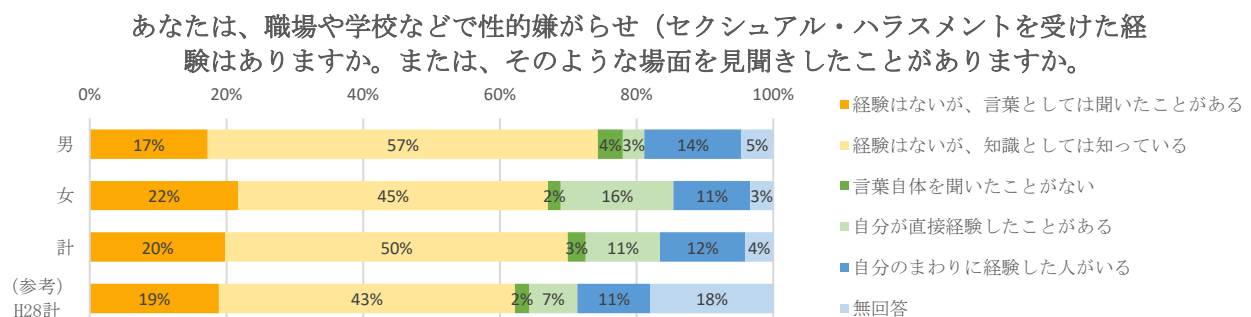


〈コ〉 社会全体



【セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスの経験について】

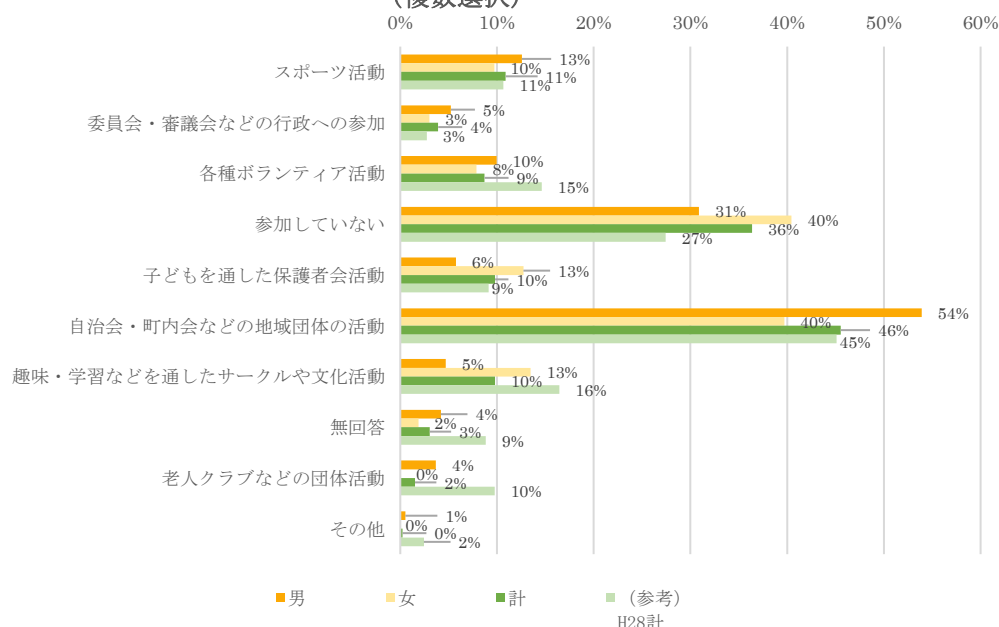
H28年調査と比較し、セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスを「知識として知っている」と回答した割合は増加しています。また、セクシュアル・ハラスメントについては、「自分や自分のまわりに経験した人がある」と回答した割合も若干増加しています。



【地域活動について】

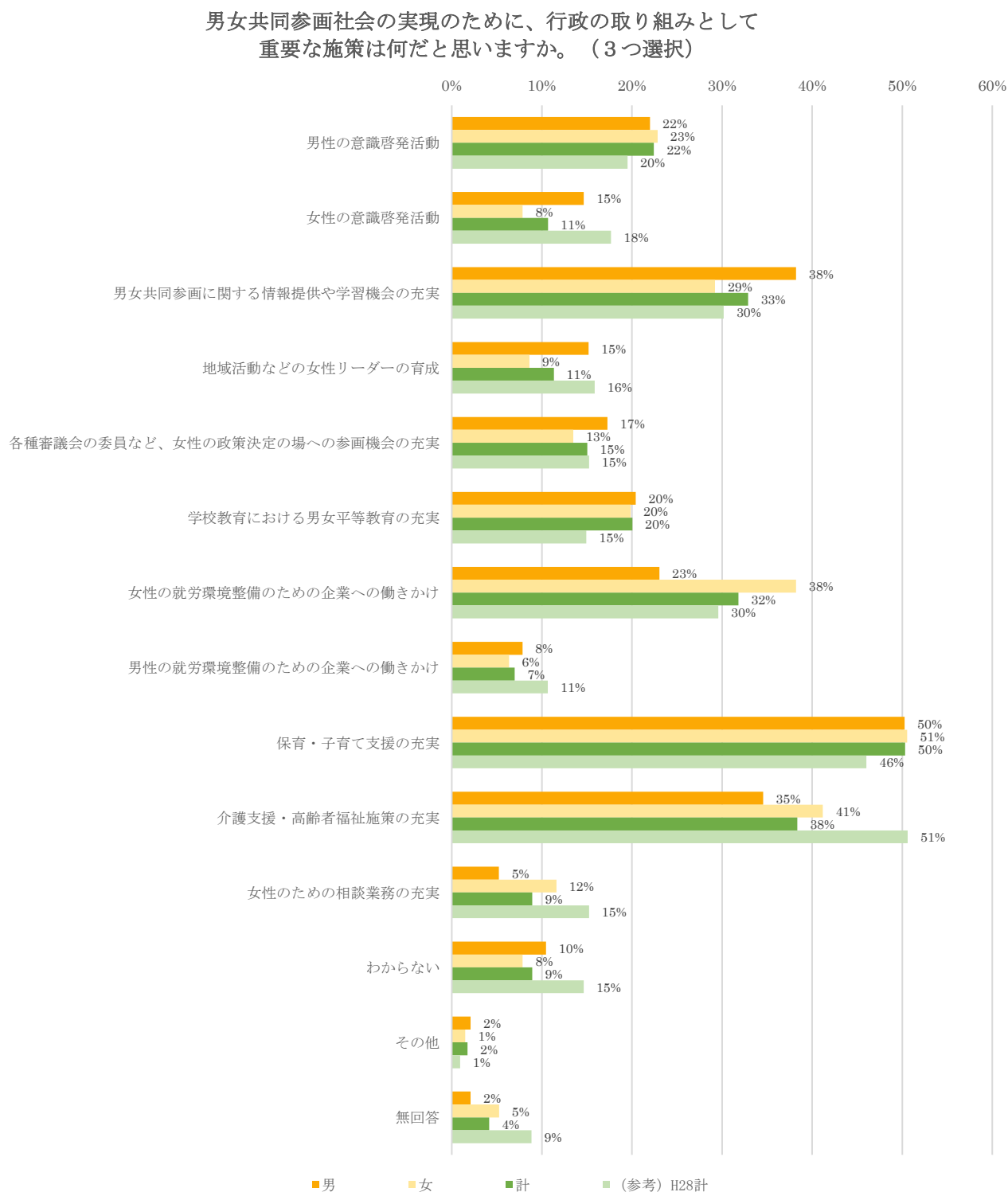
参加している地域活動については、「自治会・町内会などの地域団体の活動」が最も多くなっています。しかし、地域活動には「参加していない」との回答が全体で2番目に多く、いずれの地域活動にも参加していない市民も多くいる状況となっています。

あなたは現在、地域でどのような活動に参加していますか。
(複数選択)



【男女共同参画社会の実現について】

男女共同参画社会の実現のためには、男女ともに最も多いのは「保育・子育て支援の充実」が必要だと感じています。その他、「介護支援・高齢者福祉施策の充実」、「男女共同参画に関する情報提供や学習機会の充実」、「女性の就労環境整備のための企業への働きかけ」だと考える市民が多くなっています。



自由記入（原文まま）

【男女共同参画に関する意見、ご要望について自由記入】

・「山県市男女共同参画プラン」を作成される職員の方が心から男女平等、女性が活躍しづらい今の世の中に真に理解し秀れた経験から学んでいかれる事を望みます。期待しています。

・年齢、性別、居住地区等の区別なく皆が他の個人を尊重し合える社会であって欲しいと思います。

・男女共同参画について今後よりよい姿が実現されていくことに、異論はありませんが、基本的に性差のよさを生かしていくということが大切だと考えます。それは人のよさでもあります。また、この施策により、人口減少の改善につながっていくことも切に願います。行政が世論等で極端な動きになることなく、バランスよく行われるようお願いしたいものです。よろしくお願いいたします。

・小さい子どもをあずけて働きたい母親はそれなりの人数、いると思う。

でも、保育士が足りなくて保育所にすぐあずけられず、働くチャンスをはたしてしまうこともある。それなら、保育士の人数が増えるように、保育士への待遇をもっと良くしてはどうかと思う。

働きたい、と思う女性の中から保育士を目指す人もでてくるだろうし、他の職場で働きたい人も保育園に子どもをあずけやすくなるので win-win だと思う。

・難しい問題、取り組みかとは思いますが。応援しています。御苦労様です。

・実際、家事・育児・介護をしながらの仕事はきびしいです。育児が楽になっても年齢で正職はむづかしく、介護が加わると更に…女性が家事全般をする時点で社会に出ることは覚悟がいりますね。がんばっていただきたいです。

・それぞれの価値観に合わせるのは大変難しいですが、せめて保育、介護上での困ったことに、柔軟に対処できるしっかりした職員を育てることを行政に期待したいです。

・栗まつりの委員だが、確か、女性がいないか、少ない。市一番のイベントで、祭りの参加者の半分以上が女性。委員も半分以上女性でいい。

・本当に男女平等になるとよい！

・子どもを育てるのは女性の仕事と思ってる男性は多い。私の家でも共働きにも関わらず、女性の方が家事育児をやっている。男女共に社会において活躍するためには、やはり、女性の家庭仕事を減らさないと難しいと思います。だから、男女共同参画社会の実現に取り組むのであれば、女性の負担を減らすべきだと思う。そうすることによって自然と女性も仕事しやすく活躍が出来ると思います。あってるかわかりませんが、お願いします。

・無いとは言えないが、男女差別は地方（田舎）ほど有ると思う。市議会議員の中でもあると思いますが、より女性の意見を聞き、社会（市）全体で受け入れる事が大切だと思います。

・古い考えが根付いているので、家庭内では夫も含めて男女平等という言葉は出てこないと思う。

・夜道に男女ともに30分地域ごとに健康のため歩く（コロナ太りのため）一軒に1ヶ（1,000円位）ソーラー電池のイルミネーションを置き、「イルミネーション YAMAGATA」を売りにする。その中を夜7時30分から8時までウォーキング、町、人の活性化につな

がる。夜警にもなる。コロナ太りのため、皆でストレッチを習う。

- ・家庭生活の中では圧倒的に主人が優位にあり、家事はすべて私の仕事です。今さら手伝ってもらうつもりはないですが、銀行に行けたの、手紙を出せたの命令的な指示にうんざりしてます。高齢男性の意識を変えていく努力をして欲しいです。息子たち夫婦を見ているとちゃんと役割を分担している様で安心しています。熟年離婚なんて言葉にもつながってきてると思います。

- ・保育、子育て支援の充実に関連して公園を増やしてほしいです。

公園があると地域の方とも交流する場が増え、情報交換もできると思います。

- ・産まれた時から男と女は違うので、お互いに長所を伸ばしていけばいいと思う。

- ・大人への意識改革も大切ですが、小さい頃からの蓄積もあると思います。子どもへの「教育」ではなくて、生活の中で学校で自然と身につくような環境が構築できたらいいと思います。

- ・りこんして、しょうがいしゃになって質問がむずかしかったです。こんごも、しょうがい者には送らないで下さい。

- ・男女共同参画社会はとても進んでいると思う。行政も積極的に取り組んでいる。ただ、女性自身が保守的で目立つ事に抵抗があるので、若い女性たちが活躍する場や挑戦する機会が増えれば、少しずつ変化していくと思う。

- ・職を離れて5年になりますが、家庭の事情により家内の仕事になりますが、すでに70歳になり、体力等自分にも自身がなくなり、60歳代はまだ活力もあったような気がします、最近70歳を迎え、仕事しているより孫や子どもたちの要望もあり、毎日忙しくしていますので他事を考える余裕もなく、毎日が短く過ぎていきます。これと言ったアンケートにお答え出来ず申し訳ありません。

- ・若い人たちが、たくさん住んでくれるような社会にしてほしいです。

- ・男しかできない事、女しかできない事があるのでそれも平等と言い出したらダメ。出来る事からでいいし、男も女もやる気がなければ何もできない。本人の気持ち次第、甘やかしが根本

- ・日本人特有の古い考え方はダメ。行政の若返りが一番

- ・若者が街に残るような環境作りを男女共同参画の場からも注視して欲しい。

- ・現金だけが発行しており、社会全体として問題解決の“具体策”が明確になっていない。

- ・このアンケートに記入するうえで、自分なりに勉強することができました。ありがとうございました。「男性も女性も」の中に「健常者も障がい者も」含まれていると願ってます。あらゆる人があらゆる分野で活躍できる山県市であってほしいです。障がい者の方が山県市で働きたくても、受け入れてくれる企業がなさすぎて他市に行かなくてはならない現状です。

- ・特に興味もなく、今まで考えたこともなかった。この先どうしていこうという考えもなく、男女共同参画には関わることはないと思われる。逆に関わる必要性が見当たらない。

- ・すでに行われているかもしれませんが、子どもの頃から例えば学校で意識を高めていけるといいと思います。

- ・男女共同参画という言葉だけ聞くと聞こえはいいですが、特に地方で男性が常に優位と常々感じています。言葉だけの実効性？ではなく、普段から男女の区別等の差のない社会づ

くりが望ましいと思っています。

- ・結婚したら女性は家庭に入るべきという考え方が色濃く残っていると思います。働くなら正社員で働きたいですが、（給料が良い、福利厚生などメリットが多いので）結婚や出産を理由にアルバイトやパートでいいんじゃないかというのは、今までお金と時間をかけて頑張ってきたことが無駄のように感じむなしくなります。男女平等で教育するなら、社会に出ても男女平等に扱ってほしいです。

- ・山口市は育児に力を入れていると表では言っているけど実際はちがう。子育て支援課は必要ないと思う。働く親への支援が無い。児童館だけが充実することが子育てですか？子育て支援課に質問してもまともにとりあってもらえない。冷たくされて話もまともに聞かずに終わり。

- ・男女共同参画社会を実現するために、市民ひとり一人の意識を変えることに重点をおいた政策を講じるべきであると考えます。

- ・男女が同じ事をやるのではなく、それぞれに適したことをやるのが第1だと思います。女性の方は、次世代への生命継続の大切な役目があるので、男性がこれを安全にガードするのが本来かと思います。当然、体とは別の性別や感性を持った方々にも社会貢献の度合いが、（現状の）男より大きい方もいます。見た目にこだわらず社会に役立つ方を役立たせる構造を作るのが共同参画と思うのですがいかがでしょうか。やはり「仕事」ではささえる「男」の覚悟が何より大事だと思います。

- ・子供が遊ぶ公園は岐阜市に比べてとても少ないと思います。岐阜市は家の近くに公園がたくさんあるのに、山口市は車で行かないといけなような場所にしかありません。公園を作ってほしいです。特に伊自良地区。

- ・男女は本質的な違い、特徴があるので平等にするのは難しいと思う。女性にお茶出し、買出し、電話応対等の男性でもできることを当然女性がやるという暗黙の了解がまだのこっているの、どれだけ法律等で規制しても本当の意味で男女共同参画が実現していくことはないと思う。

- ・もっと地域の中で家庭の数が減っている重大である過疎化を防ぐための何らかの活動方法を見いだしていただきたいと思う。

- ・いろんな年代の男、女からの参加で話し合いをして、とりくむべきだと思います。

- ・数十年前の頃と比べるとかなり浸透し、会社も個人も意識が変わりましたが、自営業者、小中企業等、資金等余力がないと職場の環境改善は無理。今以上の国などの支援が必要なのでは。

- ・少子高齢化が進むため、老々介護や独居老人がますます増えると思われます。介護支援や日常的な見守り、声掛けに地域としての活動に加え、専門職を増やして行政としてさらなる活動の拡大に期待します。

- ・男性だから女性だから「～しなければならない」などという考えが社会から無くなればいいなと思います。男性、女性それぞれに人生があり、多様な生き方をする受容性が必要だと思います。

- ・女性は結婚や出産などの理由から離職せざるを得ない場合が多い現状だと思います。さらに、一度離職した後、子育てしながら再就職しようとしても、正規で就職できる職場があま

り無いように思います。市役所などの公務員採用でもパート採用はありますが、正規職員の採用は年齢制限などで再就職はほとんどないのが現状です。せめて市役所職員の採用については、年齢制限をなくしてほしいと思います。

- ・市議会平成サミット問題おいてある。①1人暮らしの為、老人介護問題心配です。②金融の機関（金作り）、商品作り※家賃、水道代、ガス代、商品部品、修理代、薬局医者服代、通勤用自転車、洗剤（食器用・洗濯用）、電化商品（ストーブ、エアコン）、履物

- ・男性、女性と分けて考えること自体が時代に合っていないと思います。性別ではなく、個人の能力、適性に合わせて社会でどう活躍していくべきか考える時代だと思います。

- ・市内で男女共同参画とはどんな参加の仕方があるのか不明。女性は食事の分野などとボランティアについてもジェンダーバイアスがあり、つまらない。能力のある方は多いはず。活躍の場を示して頂きたい。

- ・同じ会社の部署の男性が今度数ヶ月育休をとると言っていたり、時短勤務をするといった働き方が変わってきたと思います。その人たちには大変な仕事が任せられているので今の勤務だと育児に関わる時間が持てないのは分かりますが、正直休まれると困ります。かわりの職員が配置されるかも分からないので残される側はもっと大変な勤務になるかと思ってしまいます。代替りの正社員の配置など雇用主には配慮していただいたりして、全員が働きやすい環境にしてほしいです。

- ・女性が家庭だけでなく社会で活躍できるように進めるのは良いことだと思います。男女共同参画はいいのですが、男女平等であるなら、男性が家庭位に入る等の支援など、女性が社会に出ることだけでなく、男性のいろいろな形も含めなければ、男女平等はない。

- ・男女が平等かつ対等でなければいけないと思う。今後の山県市の取り組みを期待します。

- ・子育て期には、子育て支援の充実、一人暮らしの高齢者が安心して暮らせる環境など地域の繋がりやコミュニティの強化が必要

- ・山県市の取り組みの例であるサクラカンパニー制度ですが、それに認定されている企業は本当に公正な判断で選ばれた企業でしょうか？どのような基準で選ばれたものでしょうか？第三者機関が判断したものでしょうか？その企業に勤めておりましたが、全くそのように感じませんでした。また、さくらカンパニーの応募要件に、労働関係法例が遵守されていることとありますが、それは当たり前のことではないのでしょうか。その項目をいれる事態、山県市の企業の中には法令が守られていない企業があると宣言しているだけではないのでしょうか。山県市男女共同参画プランの基本目標 2 で女性の活躍の推進とありますが、山県市の議員の女性の割合が2割にも満たしておりません。行政事態がそのような体制であると文書の目標に意味がなさないのでないのでしょうか。以上となります。ご検討よろしくお願い致します。

- ・歴史の中で男性優位社会が連綿と続き、無意識的に男とか女とか、そのような括り、外側の枠で選別したり差別したりしてきました。そうではなく、「人」としてすべての人を大切に、1人ひとりの存在の価値が本人とすべての人がわかるような意識改革をしていかないといけないです。そのような意識改革をしていかないと、これからは日本の国は立ち行かなくなると思います。意識改革をするためには、まず大人（男女でなく）が成長した人間性あふれる「人」になろうと日々努力すること（中身が幼い意識レベルが低い大人が多すぎます）

そして真の人間性のある大人が、次世代の人たちに、「真の人間とは」を伝えていかなくてはいいけないです。真の人間とは、分かち合うことができる、思いやりの心を持つ、助け合うことができる、人として成長しようと努力する、自分を愛し人類を愛し地球を愛し社会の中で自分を活かす人です。